

透甲 八

十四

十四 三六

十四 公一

内閣總理大臣

任

内閣書記官

内閣書記官

外務大臣

任

陸軍大臣

任

文部大臣

任

逓信大臣

任

厚生大臣

任

内務大臣

任

海軍大臣

任

農林大臣

任

鐵道大臣

任

逓信大臣

任

大藏大臣

任

司法大臣

任

商工大臣

任

拓務大臣

任

別紙兩院ノ議決ヲ經タル

海運組

合法

案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル
海運

組令法
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

3650年 4月 4日

内閣總理大臣

大藏大臣
逵信大臣

法律第...號
(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
海運組合法案ノ裁可ヲ奏請
又

昭和十四年三月二十五日

貴族院議長伯爵松平頼壽



海運組合法

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

- 一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業
- 二 船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)ヲ爲ス事業
- 三 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡(期間備船ヲ含ム)若ハ賣買ニ關スル仲立業

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運組合ヲ設立スルコトヲ得
海運組合ハ法人トス

第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
- 二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
- 三 組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋
- 四 組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定
- 五 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
- 六 前各號ニ掲ゲルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル海運組合成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク組合員總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 組合員タル資格ニ關スル規定
- 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 事業ノ執行ニ關スル規定
- 八 會議ニ關スル規定

九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十 會計及財産ニ關スル規定

十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十七條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

- 一 定款ノ變更
 - 二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法
 - 三 業務報告及收支決算ノ承認
 - 四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更
 - 五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脫退
 - 六 解散
- 前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二

個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半数以上ニシテ議決權總數ノ半数以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 海運組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ノ取消
- 二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第二十五條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 破産
- 四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ法人トス

第二十七條 海運組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依ル海運組合聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス

第三十條 海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條 第二十二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處

ス

海運業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條 前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條 前條第一項ニ掲ゲル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セ

ザルトキ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ
五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ、「海運組合、海運組合聯合會」ヲ、「又ハ
重要肥料業統制法」ノ上ニ、「海運組合法」ヲ加フ

海運組合法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十四年 三月二十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣男爵平沼騏一郎殿

海運組合法案帝國議會へ

提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十四年三月九日

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎

平沼騏一郎

昭和十四年三月八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

近衛

法制局長官

外務大臣

吉

陸軍大臣

菊

文部大臣

尾

逓信大臣

近

厚生大臣

近

内務大臣

出

海軍大臣

近

農林大臣

近

鐵道大臣

近

近衛
樞密院議長

大藏大臣

近

司法大臣

近

商工大臣

近

拓務大臣

近

別紙 遞

信大臣

請議

海運

業組

合法案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

海運組合法案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

年三月一日

内閣總理大臣

大藏大臣

遞信大臣

法務局

法制局通第六號

昭和十四年二月廿七日

附錄第一七七號ノ二

海運業組合法制定ノ件

別紙法律案第七十四回帝國議會ニ提案相成度案ヲ具シ閣議ヲ請フ

昭和十四年二月二十五日

逓信大臣 鹽 野 季 彦

內閣總理大臣 平沼騏一郎 殿



海運、組合法

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業

二 船舶ノ貸渡（期間傭船ヲ含ム）ヲ爲ス事業

三 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡（期間傭船ヲ含ム）若ハ賣買ニ關スル仲立業

前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運、組合ヲ設立スルコトヲ得

海運、組合ハ法人トス

第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス
海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

組合員ノ事業ニ關スル事項ハ前條ノ規定ニ依リ

五 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査

六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
海運、組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五條 海運、組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費

第四條 海運、組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
 - 二 組合員間ニ於ケル事業統制
 - 三 組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋
 - 四 組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定
 - 五 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
 - 六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業
- 海運、組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ
- 第五條 海運、組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費

ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條 海運、組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ
創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府
ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ
同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ
認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ
二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行
フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意
者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ
定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ
有スル者ニ對シ海運、組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運、組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ
定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役
員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシテ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運、組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル海運、組合

成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運、組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク組合員總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

第十四條 政府海運業ノ統制ヲ圖ル爲メ、必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運、組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第十五條 海運、組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 組合員タル資格ニ關スル規定
- 五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 役員ニ關スル規定
- 七 事業、ノ執行ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十 會計及財産ニ關スル規定

十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第十六條 海運、組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超
ユルコトヲ得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務
ヲ行ハシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置
クコトヲ得

第十七條 左ニ掲グル事項ハ、
、總會ノ議決ヲ經ベシ

一 定款ノ變更

二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三 業務報告及收支決算ノ承認

四 第二十條第規程ノ制定及變更

五 海運、組合聯合會ノ設立、加入及、脫退

六 解散

前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ

二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三 業務報告及收支決算ノ承認

四 第二十項ノ規程ノ制定及變更

五 海運、組合聯合會ノ設立、加入及、脫退

六 解散

前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ

第一條

議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 海運、組合組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於

テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ
政府ハ必西テリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズ

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又

ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運、組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又

ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲、必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運、組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府必要アリト認ムルトキハ海運、組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算、經費ノ分賦收入方法、
其ノ他監督必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲が法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害

ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲、必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運、組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府必要アリト認ムルトキハ海運、組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算、經費ノ分賦收入方法、其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲方法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害

シ若ハ害スル虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ
得

- 一 總會ノ決議ノ取消
 - 二 役員ノ解任
 - 三 事業ノ停止
 - 四 解散
- 第二十五條 海運、組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス
- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二 總會ノ決議
 - 三 破産

四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運、組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運、組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運、組合聯合會ハ他ノ海運、組合聯合會又ハ海運、組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運、組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得
海運、組合聯合會ハ法人トス

第二十七條 海運、組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タルントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運、組合聯合會ノ設立ヲ命

ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依ル海運、組合聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至、

、
、
、
、
第二十五條ノ規定ハ海運、組合聯合會ニ付之ヲ準

用ス

第三十條 海運、組合及海運、組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ

第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條 海運、組合及海運、組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル

事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 海運、組合及海運、組合聯合會ニハ所得稅及營業收益

税ヲ課セズ

第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條第三號、第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運、組合及海運、組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條 第二十二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

海運業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條

前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役
其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナ
ルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同
一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條

海運、組合又ハ海運、組合聯合會ノ理事、監事又ハ清

算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、
キハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲
ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ
一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ實法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運、組合又ハ海運、組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他

、政府ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル、總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置ザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セザルトキ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ「

海運、組合、海運、組合聯合會」ヲ、「又ハ重要肥料業

統制法」ノ上ニ「海運、組合法」ヲ加フ

省

是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

民法

明治三十九年四月
法律第二十号

内務大臣

第四十四條 法人ハ其事務ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルニ任ズ
法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ履行ヲ爲シタル社員、理事及ヒテ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人違背シテ其職務ノ内ニ任ズ

第四十八條

法人カ主タル事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間内ニ第二十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
於テハ三週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第二十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス
同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第五十二條 法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス
理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ章程行爲ニ別段ノ定テキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十三條 理事ハ總シテ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但シ定款ノ規定又ハ章程行爲ノ別段ニ違反スルコトヲ得ヌ又ハ此種規定ニ在リテハ總會ノ決議ニ従フコトヲ要ス

第五十四條 理事ノ代理權ニ關シテハ別段ノ定テキ以前ニ決議ノ第三項ニ對シタルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、章程行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレタルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十六條 理事ノ決議ハ其決議ノ目的ノ範圍内ニ於テ多數ヲ以テ之ヲ決スルコトニ依リテ之ヲ決スルコトヲ得

第五十七條 法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付キハ理事ハ代理權ヲ有セス此場合ニ於テハ總會ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 法人ニハ定款、章程行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務ハ左ノ如シ

- 一 法人ノ財務ノ狀況ヲ調査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ狀況ヲ調査スルコト
- 三 財務ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不審ノ點アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
- 四 前條ノ報告ヲ得タル時ニ總會アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社団法人ノ事務ハ少クテ一年ニ一回計行ハルニ依リ
 第六十一條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十二條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十三條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十四條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十五條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十六條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十七條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十八條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第六十九條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十一條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十二條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十三條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十四條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十五條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十六條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十七條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十八條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第七十九條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第八十條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第八十一條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第八十二條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一
 第八十三條 社団法人ノ事務ハ必要アリト認ムルトハ何レノ一

日本標準規格(十一行全)(富井納)

參照

◎非訟事件手續法 明治三十一年六月 (總理、司法)
 法律第十四號 大臣副署

第三十六條 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコト
ヲ得

第三十七條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ清算人又
ハ第三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三編 商事非訟事件

第一章 會社及ヒ競賣ニ關スル事件

第二百二十六條 商法第四十七條、第四十八條、第一百一十一條第二項、第二百二十四條、第六十條第二項、第九十六條第二項及ヒ第九十八條ニ定メタル事件ハ會社ノ本店所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス地方鐵道法第六條ノ四第二項（軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ニ定メタル事件亦同シ

商法第二百六十條ニ定メタル事件ハ閉鎖ヲ命セラルヘキ外國會社ノ支店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄トス

商法第二百三十三條ニ定メタル事件ハ解散シタル株式會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

商法第二百八十九條第一項及ヒ第六百十條第一項ニ定メタル事件ハ競賣ニ付スヘキ物品所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

第二百二十七條 検査役ノ選任ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ取締役又ハ株主之ニ署名、捺印スヘシ

一 申請ノ事由

二 検査ノ目的

三 年月日

四 裁判所ノ表示

第二百二十八條 検査役ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

裁判所ハ検査ニ付キ説明ヲ必要トスルトキハ検査役ヲ審訊スルコトヲ得

第二百二十九條 商法第二百二十四條第二項ノ規定ニ依ル裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前發起人及ヒ取締役ノ陳述ヲ聽クヘシ

發起人及ヒ取締役ハ第一項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百二十九條ノ二 商法第九十八條ノ規定ニ依リ検査役ノ選任ニ關スル裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽クヘシ

第二百二十九條ノ三 商法第二百二十四條又ハ第九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ検査役ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ取締役及ヒ監査役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

第二百二十九條ノ四 前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百三十條 商法第九十八條ノ検査ニ付キ株主總會ノ招集ヲ必要ト認ムルトキハ裁判所ハ一定ノ期間内ニ其招集ヲ爲スヘキコトヲ命スヘシ

第二百三十一條 商法第十一條第二項ノ規定ニ依リ検査ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由。同法第六十條第二項ノ規定ニ依リ總會招集ノ許可ヲ申請スル場合ニ於テハ取締役方其招集ヲ怠リシ事實ヲ説明スルコトヲ要ス

前項ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十二條 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スルニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百三十三條 商法第九十六條第二項ノ規定ニ依ル定款ノ認可ノ申請ハ開業前ニ利息ノ配當ヲ爲スコトヲ要スル事由ヲ疏明シ總發起人又ハ總取締役之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請ニ對スル裁判ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第三百三十四條 商法第四十七條及ヒ第四十八條ノ場合ニ於ケル會社ノ解散ノ命令ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

前二項ノ規定ハ會社ノ申請ニ因リ開業期間ノ伸長ニ付キ裁判ヲ爲ス場合、商法施行法ノ規定ニ依リ會社ノ營業ノ禁止ヲ命スル場合及ヒ日本ニ設立シタル外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條 會社及ヒ檢事ハ前條ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

抗告裁判所カ會社ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及ヒ抗告人ノ負擔ニ歸シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

第三百三十五條ノ二 會社ノ解散若クハ營業ノ禁止又ハ外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命スル裁判カ確定シタルトキハ裁判所ハ解散シタル會社、營業ヲ禁止セラレタル會社ノ本店及ヒ支店又

ハ閉鎖シタル外國會社ノ支店所在地ノ商業登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ抗告裁判所カ
裁判ヲ爲シタルトキ亦同シ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ外國會社ニ付テハ其支店ノ登記ヲ抹消シ營業ヲ禁止
セラレタル會社ニ付テハ其本店及ヒ支店ノ登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第三百三十五條ノ三 第二百二十六條第一項及ヒ前三條ノ規定ハ會社ニ非スシテ商業登記ヲ爲シ
タル者ニ對シ裁判所カ商法施行法ノ規定ニ依リテ營業ノ禁止ヲ命スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條ノ四 會社ノ設立ヲ無効トスル判決力確定シタルトキハ受訴裁判所ハ會社ノ本
店及ヒ支店ノ所在地ノ登記所ニ其登記ノ囑託ヲ爲スヘシ

登記所カ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ登記スヘシ

第三百三十五條ノ五 地方鐵道法第六條ノ四第二項（軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ
含ム）ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ疏明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ

第三百三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所カ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ
附シタル決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

申請ヲ認許セサル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二章 會社ノ清算ニ關スル事件

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄ト
ス銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督亦同シ

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス裁判所カ
銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ
第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破産者

第三百三十八條ノ二 裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム
會社ノ清算事務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第三百三十八條ノ三 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ清算人又ハ前
條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條ノ四 商法第九十一條ノ二第二項ノ鑑定人ノ選任、呼出及ヒ訊問ハ會社ノ本店
所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

裁判所カ前項ノ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其手續ノ費用ハ會社ノ負擔トス呼出及ヒ訊問
ノ費用亦同シ

第三百三十八條ノ五 第八十八條及ヒ第八十九條ノ規定ハ前條ノ鑑定人ノ選任ノ手續及ヒ裁判
ニ之ヲ準用ス

第三章 商業登記

第一節 通則

第三百三十九條 商法ノ規定ニ依リテ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第四百十條 各登記所ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ

- 一 商號登記簿
- 二 未成年者登記簿
- 三 妻登記簿
- 四 法定代理人登記簿
- 五 支配人登記簿
- 六 合名會社登記簿
- 七 合資會社登記簿
- 八 株式會社登記簿
- 九 株式合資會社登記簿
- 十 外國會社登記簿

第四百十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閲覧ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百十四條 登記シタル事項ノ公告ハ官報及ヒ新聞紙上ニ少クモ一回之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙カ休刊又ハ廢刊ヲ爲ストキハ更ニ他ノ新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所及ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ揭示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第四百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

- 一 申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店
- 二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所
- 三 登記ノ目的及ヒ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

第五百十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲスヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第五百十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五百十條ノ三 本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第五百五十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

第五百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一个月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコトヲ得

第五百五十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第五百五十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

第五百五十一條ノ五 前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ

支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク登記ヲ抹消スヘシ

第五百一十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第五百十二條 削除

第五百十三條 削除

第五百十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第五百十五條 司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

第五百十六條 登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五百十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

第二節 商號ノ登記

第五百十八條 商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テハ同一ノ營業ノ爲メ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 商法施行法第十三條第一項ノ規定ニ依リ他人カ登記シタル商號ト同一ノ商號ノ登記ヲ申請スル者ハ舊商法施行前ヨリ之ヲ使用スルコトヲ證明スルコトヲ要ス

第六十條 商號ノ登記ノ申請書ニハ第四百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外營業ノ種類ヲ記載スヘシ商號ノ變更ノ登記ヲ申請スルトキ亦同シ

第六十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ノ承繼人カ商號ヲ續用セントスルトキハ其資格ヲ證スル書面又ハ讓受證書ヲ添ヘ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十二條 商號ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ舊事者ハ其登記ヲ申請スヘシ相續人又ハ法定代理人カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ申請書ニ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十一條第三項ノ規定ハ本條第一項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六十三條 商法第二十四條第一項ノ規定ニ依リテ商號登記ノ抹消ヲ申請スル者ハ其登記上利害ノ關係ヲ有スルコトヲ説明スルコトヲ要ス

第六十四條 第六十一條ノ二乃至第六十一條ノ四ノ規定ハ前條ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 登記所カ第六十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第三節 未成年者、妻及ヒ法定代理人ノ登記

第六十六條 未成年者カ商業ヲ營ム場合ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ法定代理人ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但法定代理人カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス

親權ヲ行フ母又ハ後見人カ同意ヲ爲シタル場合ニ於テハ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス繼父、繼母又ハ嫡母カ同意ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六十七條 妻カ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ營業ノ種類ヲ記載シ夫ノ許可ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但夫カ之ニ連署スルトキハ此限ニ在ラス夫カ未成年者ナルトキハ前項ノ許可ヲ爲スニ付キ必要ナル同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

妻カ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セサル場合ニ於テ營業ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十八條 商業ヲ營ムコトノ許可ヲ爲シタル者カ之ヲ取消シ又ハ之ヲ制限シタルトキハ遲滞ナク其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 前條ノ規定ニ從ヒテ制限ノ登記ノ申請アリタルトキハ登記所ハ原登記ニ其旨ヲ記載スヘシ

第七十條 法定財産制ニ異リタル契約ノ登記ヲ爲シタル妻カ商業ノ登記ヲ申請スルトキ又ハ
商業ノ登記ヲ爲シタル後管理者ノ變更若クハ共有財産ノ分割ノ登記ヲ爲シタルトキハ書面ヲ以
テ登記所ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ當事者ノ商業登記ニ之ヲ記載スヘシ

第七十一條 法定代理人カ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ム場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書
ニ法定代理人タル資格ヲ記載シ親族會ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第四節 支配人及ヒ會社ノ清算人ノ登記

七十二條 支配人ノ選任ノ登記ハ主人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
會社カ申請人ナル場合ニ於テハ前項ノ登記ハ其會社ヲ代表スヘキ社員又ハ取締役ノ申請ニ因リ
テ之ヲ爲ス

七十三條 支配人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ第四百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事
項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 支配人ノ氏名、住所

二 申請人カ數個ノ商號ヲ以テ數種ノ商業ヲ營ムトキハ支配人カ代理スヘキ商業及ヒ其用ユ
ヘキ商號

三 支配人ヲ置キタル場所

四 數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ其設立ノ登記ノ年月日ヲ記載シ支配人ノ選任及ヒ前項
第四號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十四條 第七十二條ノ規定ハ支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ前條第一項第四號ニ掲ケタル事
項竝ニ其變更、消滅ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

會社カ申請人ナル場合ニ於テハ申請書ニ前項ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要
ス

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號竝ニ第三號ニ掲
ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十七條 商法第九十條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請
ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十八條 清算ノ終了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ
證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

参照

非訟事件手続法（明治三十一年六月
法律第十四號）（總理、司法
大臣 副署）

第二百五條 削除

附則

第二百六條 民法第八十四條、第一千七百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條及ヒ小切手法第七十一條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラ
ルヘキ者ノ住所ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢察ノ意見ヲ求ムヘシ
當事者及ヒ檢察ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效
力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スルニ當リタル場合ニ於テハ其費用ヲ受ケタル者ノ負擔ト
シ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前
 審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス
 第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務
 名義ト同一ノ效力ヲ有ス
 過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判
 ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

参照

刑法 明治三十五年
 法律第三十五號
 (各七五七條)

- 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ適用ス
 公務員ニ之ヲ適用ス
 一 第一百條ノ罪及ヒ其未遂罪
 二 第一百五十六條ノ罪
 三 第一百九十三條、第一百九十五條第二項、第一百九十七條ノ罪
 及ヒ第一百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ入ヲ禁錮ニ致シタ
 ル罪

四
 五

内閣

日本標準規格目録(十一頁全)(富井納)

参照

登録税法

明治三十九年三月
法律第二十七号

(總務大臣)

第十九條 左ニ掲グルモノニハ登録税ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十
一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

(中略)

- 七 恩給金庫、産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、庶民金庫、
- 蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央會、
- 工業組合、工業組合聯合會、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯
- 合會、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會
- 又ハ肥料製造業組合ニ付恩給金庫法、産業組合法、庶民金庫法、蠶絲
- 業法、漁業法、商工組合中央會法、工業組合法、商業組合法、貿易
- 組合法又ハ重要肥料業統制法ニ基キテ爲ス登記

(又略)

内閣



日本標準規格(十一行全)(富井繪)

船舶業組合法準用條文

民法

- 第四十四條第一項 法人ハ其事務其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他
八ニ加ヘタル損害ヲ賠償ヘル責ニ任ス
- 第四十八條第二項 同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シ
タルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第五十條 法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス
- 第五十二條第二項 理事數人アル場合ニ於テ定款又ハ寄附行爲ニ別段
ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第五十三條 理事ハ總テ法人ノ事務ニ付キ法人ヲ代表ス但定款ノ規定
又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總
會ノ決議ニ從フコトヲ要ス
- 第五十四條 理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ
對抗スルコトヲ得ス

第五十五條 理事ハ定款、若附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限り特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

第五十九條 監事ノ職務左ノ如シ

- 一 法人ノ財産ノ状況ヲ監査スルコト
- 二 理事ノ業務執行ノ状況ヲ監査スルコト
- 三 財産ノ状況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉ノアルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト
- 四 前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

第六十條 社団法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

第六十一條 第一項 社団法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

第六十二條 總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ疎ク通知ヲ爲シタル事項ニ付テハ決議ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十三條 解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ終了ニ至ルマテ尙ホ存続スルモノト看做ス

第七十四條 法人ノ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但シ定款若クハ附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第七十五條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲損害ヲ爲スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ檢事ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事

ノ請求ニ因リ又ハ破産ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十七條 清算人ハ破産ノ場合ニ於テ解散後一週以内ニ其任命、

住所及ヒ畔取ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之

ヲ主務官廳ニ届出ブルコトヲ要ス

清算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間内ニ其任命、住所、登記
ヲ爲シ且ツ之ヲ主務官廳ニ届出ツルコトヲ要ス

第七十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ終了
- 二 債權ノ取立及ビ債務ノ辨濟
- 三 殘餘財産ノ取扱

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スベシトシ得

第七十九條 清算人ハ其就職ノ日ヨリ二ヶ月内ニ少クモ三回ノ公告

ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催
告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清
算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル
債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

第八十條 前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完済ノ後未
タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルコト
分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ
其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタル
モノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタル
モノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得
第八十三條 清算力結了シタルトキハ清算人ハ之ヲ主務官廳ニ届出ツ
ルコトヲ要ス

非訟事件手續法

第三十七條ノ二 第二百二十九條ノ三及ヒ第二百二十九條ノ四ノ規定ハ裁
判所カ法人ノ清算人又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ爲スヘキ者
ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在
地ノ區裁判所ノ管轄トス銀行又ハ無盡業■若ハ無盡管理業ヲ營ム會
社ノ清算ノ監督亦同シ

第三百三十七條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツ
ルコトヲ得ス裁判所カ銀行又ハ無盡業若ハ無盡管理業ヲ營ム會社ノ
清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ

第三百三十八條 左ニ掲ケタル者ハ清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得
ス

一 未成年者

- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公権者及ヒ停止公権者
- 四 裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人
- 五 破産者

第四百一十一條 各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

第四百十二條 登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覧ヲ許シ又ハ手数料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ説明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閲覧ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

第四百十三條 登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

第四百十四條 登記シタル事項ノ公衆ノ利益ニ關スルモノハ之ヲ爲スコトヲ要ス

公告ハ之ヲ掲載シタル紙類ノ日附及ヒ新聞紙発行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四百十五條 區裁判所ハ毎年十二月ニ翌年爲期事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ヲ選定シ官報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

公告ヲ掲載セシムヘキ新聞紙ハ休刊タル日ハ除キテ之ヲ公告スヘシ

新聞紙ヲ選定シ前項ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第四百十六條 區裁判所ハ其管轄内ニ公告ヲ爲サシムルニ適當ナル新聞紙ナシト認ムルトキハ新聞紙上ノ公告ニ代ヘ登記所長ヒ其管轄内ノ市町村役場ノ掲示場ニ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百十七條 登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十八條 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ對シテハ遺棄アル
コトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

第百四十八條ノ二 當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商標又ハ本法
ノ規定ニ依リテ許シ可カラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管
轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

第百四十九條 登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印ス
ヘシ

一 申請人ノ氏名、住所、（社）社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本
店又ハ支店

二 代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三 登記ノ目的及ヒ事由

四 年月日

五 登記所ノ表示

第百五十條 本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スハキ場合ニ於テ
正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミ
ニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第百五十條ノ二 官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請
書ニ官廳ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

第百五十一條 登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ背セサル
トキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ
即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコト
ヲ要ス

第百五十一條ノ二 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法
ノ規定ニ依リテ許シ可カラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登

記ヲ爲シタル者ニ對シ一ヶ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間内ニ異議
ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘシ
登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代
ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ
登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ掲載セシムルコ
トヲ得

第百五十一條ノ三 異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シテ
ル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ
前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效
力ヲ有ス

第百五十一條ノ四 異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確
定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ
第百五十一條ノ六 登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏

アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通
知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ
在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滞ナク地方裁判所長ノ許可ヲ
テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

第百五十四條 商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ
司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スル
コトヲ得

第百五十六條 登記簿ノ調整其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之
ヲ定ム

第百五十七條 不動産登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、
第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準
用ス

第六十五條 登記所カ第五百十一條ノ六第二項ノ規定ニ依リ商號ニ
關スル登記ノ更正ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其
旨ヲ通知スハシ

第七十五條 清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ
管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

第七十六條 清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九
十條第二號並ニ第三號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコト
ヲ要ス

第二百六條 民法第八十四條、第一千七百七條及ヒ民法施行法第二十二條
及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二及
ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第
五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八

十七條及ヒ小切手法第七十一條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セララルヘ
キ者ノ任所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ
當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告
ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケ
タル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手
續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔
トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行
力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

刑法

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 二 第一百五十六條ノ罪
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十九條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

西上越前兩省前之軍令

一 既存ノ商華組合ニ一 商華業ノ發達ヲ爲シテ統制ハ專ツ海運
並合ヲシテ之ニ當ラシメ、商華和合ニハ軍ラ全體、共同仕人等ノ經濟
事業ヲ掌ラシムルコト

二 將來モ商華組合ノ設立ハ之ヲ許スモ是レ亦右ト同シク金融、共同仕
人等ノ經濟事業ノミヲ掌ラシムルコト

海運組合は之を二對スレモ林有章第一通信者同章

一、漁船一船舶定率法施行規則第三條ノ規定ニ依ルルハ船ヲ以テ航行スル場合ハ本法ノ海運業者ノ範圍ヨリ除外スルコト

二、漁船ノ價格變更ヲ爲シ一敷運送ニ從事スル場合ト雖モ三ニ依ル場合ヲ除キ海運組合ニ加入セシメサルコト

前項ノ者ニ對シ法第二十二條ニ依リ船行ノ統制ニ依ルベキコトヲ命ズル場合ハ運賃及船舶料ニ關スルモノナラズキ他ハ總テ豫ノ農林大臣ト協議ヲ遂ケタル上之ヲ行フコト

自運貨又ハ船舶料ニ關スレモ前項命令ニ爲シタル場合ハ之ヲ農林大臣ニ通知スルコト

三、海運組合員又ハ其ノ資格ヲ有スル者ニ屬シ一般ノ貨物運送ニ使用セ
ラルル母船式漁業ノ母船ニ密接ナル關係アル命令又ハ處分ヲ爲ス場
合ハ豫メ農林大臣ト協議ヲ遂ゲタル上之ヲ行フコト

内務遞信兩省間ノ申合

- 一、左ニ掲グル船舶ヲ勅令ニ依リ本法第一條ノ船舶ヨリ除外スルコト
 - イ、專ラ湖川ヲ航行スル船舶
 - ロ、解船及曳船ヲ除外シタル總噸數五噸未満ノ船舶
- 二、地方廳ニ於テ制定セル取締規則ハ^{營業}交通等ノ警察的取締ヲ目的トスルモノナルヲ以テ本法案ニ依ル海運業ノ統制及助長ト併立セシメ支障ナキコト
- 三、第一種重要港灣第二種重要港灣ニ於ケル解船組合ニ關シ左ノ處分ヲ爲ス場合ハ内務省側トノ間ニ書面又ハ口頭ニテ打合スコト。
 - イ、第六條ノ認可

口、第九條ノ命令及認可

ハ、第十條ノ認可及處分

ニ、第二十四條第三號、第四號ノ處分

附記

指定港灣ニ於ケル解船組合ニ關シ右イ乃至ニ、ノ處分ヲ爲ス場合ハ地方長官ノ意見ヲ徵スルコト。

昭和十四年三月九日

法制局第一部長 宮内参事



内閣官房總務課

佐野理事官殿

拜啓 毎々御手数煩候段恐縮仕候海運組合法案添附ノ爲左記書類
茲許送付申上候宜敷願上候

記

昭和十四年二月十七日法制局第一部長宛内務大臣官房文書課長書信

内務省逕書第一號

昭和十四年二月十七日

内務大臣官房文書課長



法制局第一部長殿

船舶業組合法案ニ關スル件

標記ノ件ニ關スル意見當省次官ヨリ遞信次官宛別紙ノ趣送付候
條可然御配慮相成度

本件ニ付三月二日付務連信函當局長談ヲ需メ法案添附
通合議成立済(室内)



内務省 遞書 第一號

昭和十四年二月十七日

内 務 次 官

遞 信 次 官 殿

船舶業組合法案ニ關スル件

二月六日付船監第一六二號ヲ以テ御照會相成候様記ノ件ニ關スル意見差當リ左記ノ通ニ有之候條可然御配慮相成度

記

第一條

本法ハ一船舶法ノ適用ヲ除外サレタ小規模ノ船舶ヲ基礎トスル業態者ニモ適用セララルトスルナラバ、之等業態者ニ對スル地方長官ノ地位ヲ甚ダシク無視シタルノ感アリ、即チ

内 務 省

一、地方長官ハ船舶法第二十條ニ依ル除外船舶ニ對シテハ船鑑札規則（逕信省令）及地方廳村縣令ヲ以テ之ガ統轄ヲ期シ來リタルモノナルコト

二、地方長官ハ船舶ニ依ル營業交通等取締ノ見地ヨリ舩船營業取締規則、汽船營業取締規則、客船營業取締規則、渡船營業取締規則、父船取締規則（以上何レモ廳村縣令）河川法等ノ執行ニ任ジ來リタルコト

三、運航區域ガ一村縣ノ河川、港灣、湖沼内ニ限ラレ居ル業者ノ如キハ地方の特殊事情ニ基キ存在スルモノナルガ故ニ、之等業者ノ組合ヲモ主務大臣ガ統轄スルハ全ク實情ニ即セザルコト

故ニ以上諸點ヲ綜合シ地方長官ニモ一定ノ權限ヲ與フルノ必要アルモノト認ム

向船舶法ノ適用ヲ受クルモノト雖

一、主トシテ同一港内ニ於テ従業スル船舶ニ關スル組合ノ設立ニ付テ本法案第八條及第十一條ノ認可及設立命令竝ニ第十二條ノ處分ヲ行フニ際シテハ

(一) 第一種重要港灣及第二種重要港灣ニ付テハ豫メ内務大臣ニ協議スベキコト

(二) 指定港灣ニ付テハ豫メ地元地方長官ノ意見ヲ徵スルコト

ニ 依リ設立セラレタル組合ニ付本法案第二十七條第三號及第四號竝ニ第二十八條第四號ニ據ル處分及第三十九條ノ認可ヲナシタル時ハ前項(一)ニ付テハ内務大臣、(二)ニ付テハ地元地方長官ニ夫々報告スヘキコト

右二項ヲ本法案施行ニ關スル勅令事項中ニ規定セラレタシ

第二十一條

議決權ニ差等ヲ附スルハ考慮ヲ要ス。即チ資本、規模等ノ大小ニ依リ議決權ニ差等ヲ附ストスルナラバ小企業者ニ不利ヲ

招クハ必至ニシテ組合員ノ共存共榮ヲ目的トスル組合設立ノ
根本趣旨ガ覆蔽セラルルニ至ルベシ

第四十二條

本條ノ過料ハ組合ノ競争、監争等ニ對スル行政罰ナルヤ、感
戒罰ナルヤ、其ノ何レニシテモ本條第二號ノ「不正登記」ハ
刑法第百五十七條、第三號「不實ノ申告」ハ警察犯處罰令第
二條第二十一號トノ關係ヲ眞重比較研究シ直クニ在ラザレバ
處罰上困難ヲ來スベシ

海
運
組
合
法
案

海運組合法

第一條 本法ニ於テ海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

- 一 船舶ニ依リ人又ハ物ヲ運送スル事業
 - 二 船舶ノ貸渡(期間傭船ヲ含ム)ヲ爲ス事業
 - 三 船舶ニ依ル人若ハ物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡(期間傭船ヲ含ム)若ハ賣買ニ關スル仲立業
- 前項ノ船舶ニハ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶、漁船其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶ヲ包
含セズ

第二條 海運業者ハ其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲海運組合ヲ設立スルコトヲ得
海運組合ハ法人トス

第三條 海運組合ノ組合員タルコトヲ得ル海運業者ハ内地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル者トス

海運組合ハ前項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケ外地ニ住所又ハ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル海運業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四條 海運組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設
- 二 組合員間ニ於ケル事業ノ統制
- 三 組合員間ニ於ケル事業ニ關スル紛争ノ解決ノ斡旋
- 四 組合員ノ事業ニ關スル證明及鑑定
- 五 組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査
- 六 前各號ニ掲ゲルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

海運組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第五條 海運組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第六條 海運組合ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ヲ以テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

組合ノ設立ニ付組合員タルベキ資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ政府ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第七條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

第九條 海運業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ハ豫メ組合員タルベキ資格ヲ定メ其ノ資格ヲ有スル者ニ對シ海運組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海運組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條 前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請アリタル場合ニ於テ定款其ノ他必要ナル事項ニシ

テ著シク不相當ト認ムルモノアルトキハ政府ハ之ニ變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ニ依ル認可申請ナキトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十二條 第九條第一項又ハ第十條第二項ノ規定ニ依ル海運組合成立シタルトキハ組合員タルベキ資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第十三條 政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク組合員總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ收支豫算及經費ノ分賦收入方法ヲ議決スベシ

第十四條 政府ハ海運業ノ統制ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

第十五條 海運組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 組合員タル資格ニ關スル規定

五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 事業ノ執行ニ關スル規定

八 會議ニ關スル規定

九 組合員ノ權利義務及經費ノ分擔ニ關スル規定

十 會計及財産ニ關スル規定

十一 存立ノ期間又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由

第十六條 海運組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ノ選任及解任ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス

監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス

理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ

組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス

理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

理事ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ政府ハ假理事ヲ選任シ理事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第十七條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一 定款ノ變更

二 收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三 業務報告及收支決算ノ承認

四 第二十條第一項ノ規程ノ制定及變更

五 海運組合聯合會ノ設立、加入及脱退

六 解散

前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル事項ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十八條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二

個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十九條 總會ノ議決ハ定款ノ定ムル所ニ依リ出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第十七條第一項第一號、第二號及第四號乃至第六號ニ掲グル事項ノ議決ハ總組合員ノ半數以上ニシテ議決權總數ノ半數以上ニ當ル組合員出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 海運組合ハ組合員間ニ於ケル事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ニ對シ必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ政府ハ海運組合ノ組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ海運組合ニ對シ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ、業務執行又ハ財産ノ狀況ヲ検査シ、定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 海運組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ政府ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 總會ノ決議ノ取消
- 二 役員ノ解任

三 事業ノ停止

四 解散

第二十五條 海運組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立ノ期間ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議

三 破産

四 政府ノ解散命令

第二十六條 海運組合ハ其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ他ノ海運組合聯合會又ハ海運組合ト其ノ共同ノ目的ヲ達スル爲更ニ海運組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

海運組合聯合會ハ法人トス

第二十七條 海運組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員タルベキ資格ヲ有スル組合又ハ聯合會ノ中會員タラントスル者ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ、第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依リ海運組合聯合會ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ命令ノ定ムル所ニ依リ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十八條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第八條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第二十九條ニ於テ準用スル第九條第一項ノ規定ニ依ル海運組合聯合會ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席シタル創立委員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十九條 第四條、第五條、第九條第一項及第十條乃至第二十五條ノ規定ハ海運組合聯合會

ニ付之ヲ準用ス

第三十條 海運組合及海運組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三十一條 海運組合及海運組合聯合會ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 海運組合及海運組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ

第三十三條 民法第五十一條第二項、第五十二條第二項、第五十四條、第五十五條、第五十九條

第三號第四號、第六十條乃至第六十四條及第六十六條ノ規定ハ海運組合及海運組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ民法第六十二條中五日トアルハ之ヲ十日トス

第三十四條 第二十二條ノ規定ニ依ル政府ノ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處

海運業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ従業者ガ其ノ業務ニ關シ前項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十五條 前條ノ罰則ハ海運業者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事、監事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

本條ノ罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

第三十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ海運組合又ハ海運組合聯合會ノ理事又ハ監事ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 本法ニ依リ政府ノ徵スル報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他政府ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

四 本法ニ依リ備置クベキ書類ヲ備置カザルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セ

ザルトキ

第三十九條 第三十條及第三十一條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ於テハ之ニ違反シタル者ヲ
五百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録税法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ノ上ニ「海運組合、海運組合聯合會」ヲ、又ハ
重要肥料業統制法」ノ上ニ「海運組合法」ヲ加フ

海運組合法案理由書

本邦海運ノ健全ナル發達ヲ圖ルガ爲ニハ政府ノ適切ナル監督ノ下ニ海運業者ヲシテ強力ナル組織
ヲ結成セシメ業界ノ指導及統制ニ努力セシムルヲ最モ有效且適切ナリト認ムルヲ以テ茲ニ海運業
者ノ組合組織ニ法的根據ヲ與ヘ規律アル機構ヲ確立セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ